

仮設住宅における見守りとコミュニティづくり

《釜石市鵜住居における取り組みを事例として》

## サポートセンターにおける活用方法

鵜住居地区サポートセンター 石田正子

1. 東日本大震災による釜石市の被害状況
2. 鵜住居日向地区仮設団地の現況
3. “お元気発信”の活用状況
4. 血圧測定の実施状況及び今後の展望

# 第1部 「被災」から「復旧」へ

## I. 東日本大震災の概要

### 1. 東北地方太平洋沖地震の概要（気象庁）

- (1) 発生日時 平成23年3月11日（金）14時46分頃
- (2) 震源及び規模 三陸沖（北緯38.1度、東経142.9度、牡鹿半島の東南東130km付近）  
深さ約24km、マグニチュード9.0
- (3) 震度 ・震度6弱 釜石市中妻町 ・震度5強 釜石市只越町
- (4) 警報等の発表 3月11日 14時49分 大津波警報発表  
3月12日 20時20分 津波警報に切り替え  
3月13日 7時30分 津波注意報に切り替え  
3月13日 17時58分 津波注意報解除

### 2. 津波の概要（気象庁）

- (1) 第一波 11日14時45分 引き0.1m
- (2) 最大波 11日15時21分 4.1m以上（観測地点の観測値）  
9.3m（釜石港湾合同庁舎・痕跡等から推定した津波の高さ）

#### 【参考】

右の表における数値は、岩手県ホームページの「岩手県沿岸の海岸堤防高の設定(H23.9.26、10.20公表)」から引用

地域海岸名	今次津波 痕跡高
釜石湾	10.1m
大槌湾	15.1m
両石湾	22.6m
唐丹湾	21.0m

### 3. 災害対策本部設置状況

3月11日 14時46分（継続中）

### 4. 避難状況

- (1) 避難指示発令 3月11日 14時49分
- (2) 避難指示解除 3月13日 17時58分
- (3) 避難指示対象 6,354世帯、14,710人（住民登録・世帯数：平成23年2月末日現在）

※津波による避難の勧告又は指示の対象となる地区（釜石市地域防災計画震災対策編）



## 5. 人的被害

### (1) 人的被害等一覧表

人 口	39,996 人	H23. 2 月末住民基本台帳
死亡者数	885 人	H23. 11. 17 現在 ※身元不明 35 人
行方不明者数	176 人	H23. 11. 17 現在
避難者数	0 人	H23. 8. 10 現在
(市内避難所)	9,883 人	(最大) ※88 箇所 H23. 3. 17 現在
避難者数	0 人	H23. 8. 10 現在
(内陸避難)	633 人	(最大) ※29 施設 H23. 5. 9 現在

※死亡者数については、釜石市で遺体収容されたもの

※行方不明者数については、市民から情報提供のあったもの

### (2) 各年代別の状況 H23. 11. 17 現在

年齢区分	人 口 ①	死亡者数 ②	行方不明者数 ③	被災者数 ④ (②+③)
0～14 歳	4,404 人	15 人	3 人	18 人
15～64 歳	21,876 人	269 人	69 人	338 人
65 歳以上	13,716 人	471 人	104 人	575 人
計	39,996 人	755 人	176 人	931 人

※死亡者数は、(1)の死亡者数のうち身元不明の遺体、他市町村に住所がある遺体を除いたもの

### (3) 地区別の状況 H23. 11. 17 現在

地区名	人 口 ①	死亡者数 ②	行方不明者数 ③	被災者数 ④ (②+③)
釜 石	6,971 人	208 人	21 人	229 人
中 妻	4,856 人	23 人	3 人	26 人
小佐野	8,308 人	25 人	2 人	27 人
甲 子	6,014 人	10 人	4 人	14 人
鵜住居	6,630 人	445 人	138 人	583 人
栗 橋	1,263 人	4 人	3 人	7 人
平 田	3,848 人	21 人	3 人	24 人
唐 丹	2,106 人	19 人	2 人	21 人
計	39,996 人	755 人	176 人	931 人

※死亡者・行方不明者数は住所地によるもの



## 6. 家屋被害状況

(1) 住家 4,548 戸（全壊 2,954、大規模半壊 396、半壊 291、一部損壊 907）

○地区別の状況

地区名	住家数	被害区分	被災住家数				
			全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	合計
釜石地区	3,291	津波	1,003	180	108	92	1,383
		地震	2	0	11	116	129
		計	1,005	180	119	208	1,512
平田地区	1,251	津波	180	57	20	15	272
		地震	0	1	9	123	133
		計	180	58	29	138	405
中妻地区	1,888	津波	0	0	0	0	0
		地震	0	1	24	141	166
		計	0	1	24	141	166
甲子地区	2,255	津波	0	0	0	0	0
		地震	0	2	9	125	136
		計	0	2	9	125	136
小佐野地区	3,386	津波	0	0	0	0	0
		地震	0	0	23	163	186
		計	0	0	23	163	186
鵜住居地区	2,517	津波	1,515	99	49	27	1,690
		地震	0	1	3	57	61
		計	1,515	100	52	84	1,751
栗橋地区	638	津波	0	0	0	0	0
		地震	0	0	0	2	2
		計	0	0	0	2	2
唐丹地区	956	津波	254	55	30	8	347
		地震	0	0	5	38	43
		計	254	55	35	46	390
合計	16,182	津波	2,952	391	207	142	3,692
		地震	2	5	84	765	856
		計	2,954	395	291	907	4,548

※「住家」は専用住宅、併用住宅及び共同住宅

※住家数は平成 22 年 1 月 1 日現在

※被災住家数は平成 23 年 11 月 7 日現在

※地震被害は、調査の申し出があった調査済住家の戸数

(2) 非住家 795 戸（全壊 433、大規模半壊 151、半壊 142、一部損壊 69）

※「非住家」は専用の事務所、店舗等



東日本大震災からの復興 撓まず屈せず

釜石市



### 3. “お元気発信”の利用状況

#### 現在 利用されている入居者

1. Aさん 83歳 (女) 独居 A仮設
2. Bさん 66歳 (女) 独居 A仮設
3. Cさん 67歳 (男) 独居 D仮設
4. Dさん 73歳 (男) 独居 D仮設
5. Eさん 71歳 (男) 独居 D仮設
6. Gさん 76歳 (女) 独居 D仮設
7. Hさん 74歳 高齢世帯 E仮設

#### 利用中止された入居者

1. Iさん 73歳 高齢世帯 B仮設  
(高齢者として扱われているようで気になる。自分たちは大丈夫)
2. Jさん 78歳 (男) 独居 A仮設  
(肺炎で入院中に死亡)
3. Kさん 76歳 (男) 独居 仮設  
(電話をかける手間が煩わしいし束縛されているように感じる)
4. Lさん 80歳 高齢世帯 A仮設  
(電話料金負担の不満と電話をかける手間が煩わしい)

#### 利用者の声

1. 体調不良時に迅速な対応(通院介助・準備・かかりつけ医との連携)を取ることができ疾病の重篤化を予防できる。
2. 自分は見守られているという安心感を持って生活できる。
3. 電話料金の自己負担や電話を掛ける手間が煩わしい。
4. 電話のテープの声が味気ない。
5. 近くにサポートセンターがあるのだから、訪問してもらったほうが嬉しい。

### 4. 血圧測定の実施状況及び今後の展望

#### 血圧測定登録者

1. Aさん 女 69歳 不定期
2. Bさん 男 59歳 毎日測定

3.	Cさん	女	70歳	週2～3回測定
4.	Dさん	男	71歳	週2～3回測定
5.	Eさん	女	70歳	活動参加時測定
6.	Gさん	男	70歳	ほぼ毎日測定
7.	Fさん	女	67歳	ほぼ毎日測定
8.	Gさん	男	73歳	不定期 訪問して測定
9.	Hさん	女	67歳	活動参加時測定
10.	Iさん	女	57歳	活動参加時測定
11.	Jさん	男	63歳	週2～3回測定

※ 現在登録している方は全員D仮設団地入居者です。

自宅で測定できるシステムが確立できれば、測定したいと希望されている方は 現在

A仮設 20名          D仮設 11名  
E仮設 5名

## 《課題》

- 生活環境の急変により、生活習慣病のリスクが大きくなっている。
- 血圧が高いにも関わらず促しても受診しようとししない。  
降圧剤への偏見から受診を拒んでいるケースもあり。
- 既往歴がないためか、かかりつけ医がなく高血圧の自覚もない。
- サポートセンターを訪問して測定するのが困難な方が多い。  
(就業等で日中不在・移動手段がない・歩行困難)
- 住宅を訪問されるのが、煩わしいと感じる方へのアプローチが難しい。
- 血圧計を購入する経済的余裕がない方が多い。
- 血圧を測定する習慣がない。

## 《今後の展望》

- 自宅で血圧を測定しその数値をサポートセンターで把握することで、健康管理に役立てると同時に安否確認のツールとして利用。
- リスクの高い入居者に対して、栄養士・保健師の協力を得て健康講座を開催し、健康管理の必要性を訴えていく。
- B・Cチェッカーの利用を検討  
末梢血管の健康度・動脈硬化度を把握することで、生活習慣病予防の意識づけが期待できる。